

# 会 議 録

会 議 名	令和5年度第3回丸亀市社会教育委員の会
開催日時	令和5年12月25日(月) 10時00分～12時05分
開催場所	市役所3階303・304会議室
出席者	出席委員 金澤 泰宏、宮武 恵美子、倉田 眉貴子、西川 昌宏、高橋 勝子、 藤田 裕子、大村 隆史、塩田 康広、中俣 保志 欠席委員 久米井 直人 傍聴人 なし 事務局 市民生活部 田中部長 生涯学習課 谷本課長、後藤副課長、田村主任
協議案件	議 事 (1) 令和6年度予算(案)について(生涯学習事業関連)《非公開》 (2) 協議テーマ「学習成果を社会で活用することを見据えた学びのあり方」 について 報 告 (1) 令和5年度全国社会教育委員連合表彰について (2) 第45回中国・四国地区社会教育研究大会島根大会への参加報告について (3) 令和5年度家庭教育状況調査報告書について (4) その他
配付資料	次第 【資料1】令和6年度 生涯学習に関する主要な取組みに係る予算概要《非公開》 【資料2】テーマ「学習成果を社会で活用することを見据えた学びのあり方」 について協議する際の論点 【資料3】札幌市と静岡市の事例 【資料4】札幌市情報紙「ら・ちえりあって vol.89」 【資料5】静岡市パンフレット「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に講座案内 2023」 【資料6】社教連会報 No.93 【資料7】第45回中国・四国地区社会教育研究大会島根大会 参加報告 【資料8】令和5年度家庭教育状況調査報告書(概要版)

事務局	<p><b>【開会】</b></p> <p>おはようございます。ただいまから令和5年度3回丸亀市社会教育委員の会を開会いたします。本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進行いたしますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>また、資料につきましては、事前にお送りしたもののほか、当日配付資料としまして、席次表、事前提出意見の取りまとめ、令和5年度家庭教育状況調査報告書概要版、それから前回の会議録を配付しておりますので、ご確認をお願いします。資料に不足のある方はいらっしゃいませんか。</p> <p>それでは、会長がまだ来られていませんので、代わりに副会長からごあいさつをお願いいたします。</p>
副会長	<p><b>【副会長あいさつ】</b></p> <p>おはようございます。今日の議事は二つです。資料が結構たくさんありますので、活発な意見を求めつつ、円滑に進められたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。議事に入ります前に、本日の会議は、10名の委員のうち、現時点で8名の委員にご出席いただいておりますので、丸亀市社会教育委員の会に関する規則第6条第1項に基づき、本会が有効に成立しておりますことをお知らせします。</p> <p>それではただいまから議事に入ります。</p> <p><b>【議長選出】</b></p> <p>(丸亀市社会教育委員の会に関する規則第4条により会長が議長に就任。会長不在の場合は、副会長が代理する)</p> <p>丸亀市社会教育委員の会に関する規則第4条に、「会長は、会議を招集し、これを主宰する。」とあります。会長がまだ来られていませんので、副会長にこれからの議事進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
副会長	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>最初に議題1、令和6年度予算(案)について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>なお、予算(案)につきましては、3月議会の議決事項となりますので、本件に関しましては非公開といたします。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>《資料1に基づき説明》</p>

	<p>《質疑応答》</p> <p>《副会長から会長に議長交代》</p>
会長	<p>続きますして、議題 2 の「学習成果を社会で活用することを見据えた学びのあり方について」に移ります。事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>《資料 2、3 に基づき説明》</p>
会長	<p>たくさんの資料がありますが、他市の事例として、札幌市と静岡市の特徴などを事務局で一つにまとめていただいたものが資料 3 になるかと思います。また、この会で協議する際の論点と、札幌市と静岡市の講座のこことここがつながりますよ、ということも踏まえて説明していただきました。資料があちらこちらに飛んで少し分かりにくかったかもしれませんが、説明をお聞きになって何か質問等がありますか。ここの説明がよく分からなかったということでも結構です。</p>
委員	<p>論点を幾つか挙げていますが、今までこういう基本方針のような、何かまとまったものがある中で、この話をされているのでしょうか。</p>
課長	<p>本市には第 4 次丸亀市生涯学習推進計画があって、その中で、生涯学習推進のための施策について体系的にまとめています。ただ、計画の中では、例えば「学びの提供」という表現にとどまっているところがあり、その学びの中でも、地域に還元するための仕組みや内容ということまで十分ふれられていませんので、今回、さらに具体的な内容についての協議をお願いしたということです。</p>
委員	<p>分かりました。</p>
会長	<p>資料 2 に、協議する際の論点が示されております。ここでの協議では、「地域」というのは主に「コミュニティ組織」を想定しているということが先ほどの事務局の説明の中にもありましたが、そこでの人材に関する課題の解決につながる学びについてご意見をいただきたいと考えています。事前に課題を提出していただいた委員のみなさまにはその課題にもふれていただきながら、論点に沿ってご意見をお願いしたいと思います。論点は一つでも、関連するものすべてでも構いません。</p>
委員	<p>従来から、講座の主な対象としては成人を考えているのではないかと思います</p>

	<p>が、先ほども申しましたように、これからは、部活動を外部委託するという流れになってきています。そうすると、地域の小・中・高校生の部活動を引き受けるという視点もこの中に持っていただき、市が主体となって進めていただきたいと思います。</p>
会長	<p>部活動に関しては、なかなか委託が進んでないという状況は把握しております。しかし、社会教育における学びの場にすぐにつながるかという点、それは難しいと思います。</p>
委員	<p>A 委員のご意見は大事ですが、ここでの協議として、部活動の受け皿も含めて考えることは難しいと思います。部活動の地域移行については、担当課が異なりますので、ここでの議論とはまた別かと思えます。ただ、A 委員が言われるとおり、すごく大事な課題であるという点については、委員のみなさんにも十分伝わったと思います。</p>
部長	<p>部活動の地域移行については、令和 5 年度から 7 年度までの 3 年間で推進期間ということで、地域の人材を活用しながら、部活動が地域づくりにもつながるようという文部科学省の考えを我々も聞いております。そのような状況の中で、市では今、教育委員会、それから部活動には運動部と文化部がありますので、運動部の方はスポーツ推進課、文化部の方は産業文化部の文化課の三つの課で、どういう形で進めていくことがいいのか議論をしている段階です。その中で、国が言っているように、すぐさま地域が受け皿となって進めていくことが可能かどうかという議論もあります。</p> <p>従いまして、まずはどういう形で、例えば、少子化の問題もあって、部活動に参加する生徒さんが 1 校ではなかなか集まらないという学校もありますので、合同部活動や拠点校方式なども含めて、まずはどういう形で進めていくかなどについて議論しているところです。今は、どのようにしてスムーズに新しい形に移行できるか考えている段階ですので、しばらく見守っていただけたらと思います。</p>
委員	<p>議論の現状について A 委員が把握できていないということは大きな問題だと思います。ですから、そこは丁寧に、やはり A 委員のお立場のようなところに情報が届くようにしていただくということが大事だと思います。</p>
部長	<p>はい。そういったご意見も踏まえて、考えていきたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。3 年間の中で、どのように議論が進んでいるかという点について、当事者の方たちに伝わるようにしていただきたいと思います。</p>

<p>委員</p>	<p>丸亀市PTA連絡協議会につきましては、コロナ禍の約3年間、ほとんど行事ができず、今年度から活動を再開するようになりました。3年間の空白により、やり方などについて我々役員も先生方も分からないということが起こっています。従来から行っていたことを元に戻すということも大事ですが、見直すチャンスでもあります。</p> <p>保護者や、PTAの役員の方々と、今年度、調整を行いつつ、まずは私も1年目ですので、元に戻していくことを進めています。それに加えて、今からは見直し、例えば、かつてはスポーツ大会での交流というものがありましたが、参加者が少なければもう必要ないのか、あるいは新しいことをすればいいのか、などという見直しを、手探りではありますが進めようとしているところです。</p> <p>地域づくりやまちづくりという点に関しましては、私の住む飯山地域では中学校1校に対して小学校が2校ですので、ちょうどいい規模ということもあるのかもしれませんが、学校とも協力しながら地域づくりを進められていると思っています。しかし、コミュニティによっては連携しづらいところもあるということをお聞きしていますので、そこを何とか、一定の水準にできたらと思いました。</p> <p>また、どこのコミュニティも同じだと思いますが、中心になって運営に当たっている人の高齢化が進んでいると思います。少しでも若い方にコミュニティ活動にかかわっていただくために、PTAをされた方は比較的、協力的な方が多いと思うので、そういった方に生涯学習講座に参加してもらったうえで人材として地域活動に生かせるような仕組みができたらと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。PTAとコミュニティとのつながりがありながらも、課題として高齢化や担い手不足ということが示されたかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>郡家コミュニティは、郡家町と三条町がその範囲になっています。南北に長い地域で、人口は1万3,000人ぐらいです。今も開発が進んでおり、田んぼに家がどんどん建っています。一つの団地で大体27軒くらいあります。道の細いところに住宅ができているため、交通事故も多くなっています。小学生も多く、小学校ではほとんどの学年が4クラスあります。私は青色パトロールカーに乗っていますが、今いちばん心配なことは、大勢の方が引っ越してこられたときに、交通事故が起こらないかということです。</p> <p>また、転入してこられた方は自治会に入りません。郡家コミュニティ全体の自治会加入率が約40%ですので、自治会に加入していない方とどのようにして交流したらいいのか、頭を悩ませています。</p>

委員	<p>城坤コミュニティの自治会加入率は約 39%です。新しい住宅が増え、若い人が地域に入ってくると人口は増えますが、組織化ができていません。</p> <p>従来からの自治会に入らない理由には、「何か役があたるから」とか、「年齢が高くて活動もできないから」などの意見が多くあります。</p> <p>川西コミュニティでは「コミュニティ自治会」というのを進めています、それになると従来の自治会とやり方が変わってきます。「もう活動はしなくていいですよ。こちらから情報は出します。気が向いたら出てきてください」というような形です。会費は、基本的には年間で 3,000 円、80 歳以上は 1,000 円とし、加入した方には、地元のスーパーマーケットの割引券を出すなどの、加入した場合のメリットなども工夫して、現在 600 世帯くらいが加入しているそうです。仮に会費 3,000 円の世帯が 500 世帯だと、年間で 150 万円の会費が入ります。その会費を使っていろいろなことができるということです。</p> <p>私の方の地域でも新しく入ってこられたところに自治会加入について話に行くのですが、なかなかうまくいきません。みんな、いろいろな所から来ているので、もともと連携がありません。「自治会を作りませんか」ということも誰に言ったらいいのか、世話をする人がいるのか、まったく分かりません。</p> <p>今では、単に自治会の数が増えたらいいということではなく、地域全体で何かやろうとした場合に、地域全体の人がかかわれるような仕組みを緩やかな形で作らなければ、組織化ができないと考えています。そのため、来年度から、コミュニティ自治会のような、例えば「城坤自治会」など、そういうことを進めていこうかと思っています。</p> <p>また、自治会以外の人とどうやってコミュニケーションをとるか、ということですが、私の方の自治会では、行事を行うときに、自治会以外の人にチラシを配ります。具体的に言うと、今年、夏祭りを開催した時に、「ビンゴもあるよ」など、楽しいこともしっかり書いて、「自治会以外の人も自由に来てください」と呼びかけました。すると結構集まりました。</p> <p>若い人や新しい人とどうやってつながるかということを真剣に考えないといけないという機運が、最近少し出始めたぐらいです。来年度は、自治会を増やすということについて、試験的に取り組んでいこうかと思っています。</p>
委員	<p>今おっしゃったようなコミュニティとの間で、連携した学びのプログラムをどのように推進するかという話になるかと思います。</p> <p>たまたまですが、事例として示された札幌市に私も 17 年ぐらい住んでいます。札幌市には公民館がほとんどなく、区民センターという、丸亀市でいうコミュニティセンターがあり、そこで講座を企画するというより、何かしたい人に場所貸しを行うことが主になっています。</p> <p>そのような状況の中で、「ちえりあ」という生涯学習センターを市が作りました。資料 4 を見ていただいたら分かりますが、地元の大学の方の企画と、趣味</p>

の会の方の企画、そしてもう一つ、10年前くらいに札幌市の中心部に高校が引っ越してきました。高校にあまり馴染みはありませんでしたが、場所としては交通の便がいいので、その高校と連携した講座も開設しています。

札幌市は大都会ですので、地域組織のようなつながりがありません。そのような中でどうしているかという、大学の先生や地元の地域研究者のような方が、15年間くらいずっと、地元のまちの歴史を地域の高齢者に聞きながら、まち歩き講座などをしながらまちの歴史を掘り起こしています。こういう人たちが持っている情報が、結局、避難するときどこが安全か、という防災の議論と重なります。このように、札幌市の事例は、地域の人たちとのつながりを掘り起こすという意味で参考になると思います。

また、関連していうと、福岡市では、地域史を公民館の講座で学ぶということ、私が知っている限り、30年以上行っています。高齢者からすると、どういう生活をしてきたかということを書き留めることにはなりますが、若い人からすると、まちの成り立ちのようなものを聞き取る機会になっているようです。

そのほか、直接的な例ではありませんが、長野県の飯田市では、対象を女性に絞って「女性起業塾」というものを開催しています。その地域にいる方に地域とかかわってもらいたいため、その方を講師に呼び、全部の講座ではありませんが、地域で奮闘されている女性の話をまぜながら講座を行っています。生涯学習を通して地域の方が交流するような企画にしているようです。

地域課題の一つに、地域活動を担う人の人材確保ということがあるとは思いますが、一方で、改善をした方がいいと思うこともあります。例えば、自治会組織のお金の使い方が外から見ると不透明だったり、あるいは、慰安旅行を中心にお金を使っているのではないかという疑念を持たれたりするような活動は、やはり改善しなければなりません。

まとめますと、一つは、生涯学習の講座として、地域のことを学ぶような柱を資料2に基づいた形で作っていくということ。もう一つは、その地域で実際に活動している方のやり方の改善のようなものもあるかと思います。

また、ダイレクトではありませんが、静岡市の例で言いますと、受講者がまちづくりの担い手となるためにはどのような講座が必要かということ考えた内容になっています。静岡市の講座はいろいろな課が担当していますので、財源もそれぞれに持っているかもしれません。生涯学習の企画として継続的に予算を持ちながら、まちの人をつなげていくということは大切な視点だと思います。

さらに、コミュニティによって特徴もあると思います。例えば、私が所属している城北では結構いろいろな講座を開催しています。また、外国の方が多く住むコミュニティもあります。そういう意味では各コミュニティの活動と、資料2の論点を具体的にどうつなげていくかという、この資料2の次の段階のところをもう少し深掘りしたらいいのかなと思いました。

<p>会長</p>	<p>いろいろな視点からご意見をいただき、ありがとうございます。自治会のあり方については、これから考えていかなければいけないと思いますが、それに関係した学びの場を作るということをこの会では考えていきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>率直に言って、課題が多すぎて大変です。課題やご意見がいろいろある中で、すべてについてコミュニティで対応することは時間的にも人員的にも無理ですので、10個課題があったら、とりあえず3つくらいから始めようという考えでいます。</p> <p>城坤コミュニティの場合は人口が1万4,000人くらいですので、住民が一体何を課題としてとらえているのかということを知ることが必要です。こちらから一方的に、「これをやったらいいです」、「あれをやったらいいです」ということを言ってもなかなかつながらないし、ニーズからはずれている場合もあります。ですから、まずは何を望んでいるかということ、大体でもいいからつかんで、その後、会長や副会長などの役員がどの課題を取り上げるか決めていきます。ですから、その議論に上がらない課題については活動としてはできません。やらないことに対して批判は出てくると思いますが仕方ありません。</p> <p>また、やろうと決めたことについて、どのようにして住民に働きかけるのかということになると、選別した課題について、何か企画をして行事として行わないと、関心のない人には伝わりません。そういう意味では、課題に対しては、プロジェクトとしてしっかり取り組むことを心がけています。</p> <p>その一つとして、学校とコミュニティとの連携ということで、今、城坤小学校のPTAと西中学校のPTAの方、それからコミュニティの中では健全育成部会の3者が上手く連携しながらやっています。</p> <p>最初は、子どもたちにコミュニティの行事に協力してもらおうという考えでした。具体的に言うと、敬老会の受け付けを中学生に頼もうかということになり、校長とも相談して実際に行いました。すると、思っていた以上に中学生が活躍してくれ、老人会の人なども感心していました。</p> <p>そして第2弾として、つい1週間前ですが、クリスマス会を行いました。会の内容について健全育成部会の大人が企画を中学生に提案したところ、「それではいかんわ」という意見がポンと出てきましたので、「やってみる？」と投げかけたところ、自分たちだけで企画を考えてくれました。また、大人たちから「こういうことをやったらいいと言うだけではできんよ」ともう一つ投げかけると、友人を呼んできて、準備物などを全部、自分たちで作りました。さらに、「司会はやっぱり大人がせんといかん」と言ったらそれも否定されて、子どもたちが「自分たちでします」と言いながら実際にやりました。</p> <p>最初は、中学生が40人ぐらい来てくれたらいいかと思っていましたが、結局69人の子が来ました。我々大人は見守っていただけです。大人ではちょっ</p>



	と考えられないような発想が相当出てきまして、私たちも刺激を受けました。
委員	質問ですが、その中学生はどこの中学生ですか。社会福祉協議会が設けているボランティア部が関係しているのですか。
委員	西中学校が主だと思いますが、ほかの中学校の生徒もいたかもしれません。敬老会に来た中学生が友人を誘って広がっていったので、組織とは関係ありません。
委員	子どもたちが活動する際の保険には入っているのですか。
委員	コミュニティ活動として年間で一括して保険に入っています。そのうえで、行事によって個別に保険に入ることもあります。
委員	それだと安心ですね。私は、生徒たちの部活と生涯学習を組み合わせながら、市全体で進めていくといいのではないかと考えています。子どもたちの保護者にも地域行事に参加してもらうことにつながるということを想定して、少し話が大きくなりますが、いずれはしなければならないことだと思います。
委員	<p>コミュニティも一つの組織ですから、組織的な運営を行うために、役員などみんなの気持ちを合わせるにはどうしたらいいかということも大きな課題の一つと思っています。</p> <p>地域では多くのイベントを行います。イベントをただやるだけでなく、それは何のために行うのかということまでの議論を深めないと、行事をこなすだけになってしまいます。</p> <p>今度、春まつりを行うのですが、その時も、少し理屈っぽくなるのですが、何のためにやるのかということまで意見合わせをしなければならないと思っています。そこまでできていれば、あとはもう、いろいろ工夫しながらやったらいいだけです。</p> <p>また、成果を見るときに、何人来たか、というのも大事ですが、参加者からどういう反応があったのか、ということについても、ちょっと聞き取りをしようね、と言っています。良かったのか、あるいは、来た人は何を目的に来たのかなど、そういうもっと深いところで参加者の気持ちを知らなければ、次の企画が組めないということを、先日、役員会で話したところ。そのことが役員の本音のところ腹落ちしないと、みんなで同じ方向を向いてやろうということにならないと思います。本来、何のためにしているのかということについて、理屈だけでは伝わらないので、行事を通じてしつこく話をしようと思っています。</p>

	<p>そのほか、資料7の報告書の中に、学校と家庭と地域に関する基調講演の報告があったと思いますが、その中で「地域は斜めの関係をつくる場所」というような言葉がありました。「それもそうだな」と思いましたので、そういう斜めの関係性ができるようなことをコミュニティとして企画していこうと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>B委員からは、学校とコミュニティ協議会の連携において、成功したイベントの事例について話していただきました。その中で課題となるのはやはり担い手のリーダーシップです。その課題を学びにどうつなげていくかというのが、これからのことになるかと思いつながりながら聞かせていただきました。</p>
<p>委員</p>	<p>みなさんのご意見を聞きながら思ったことが2点あります。</p> <p>1点目は、地域活動にまだ目が向いていない方に参加していただくためには、一つのきっかけというか、タイミングが必要と思います。B委員が言われたように、やはり何かのイベントを行って、そこにまず来てもらわないことには始まらないのかなと思いました。</p> <p>私はポイント制度の導入を提案します。ボランティア精神からいうとちょっとどうかと思いますが、やはり全然興味のない方に一歩踏み出してもらうためには、「こういう魅力がありますよ」ということをアピールする仕掛けが要るのかなと思ったのが1点。</p> <p>2点目は、札幌市でも静岡市でも、講座の目的を明確に示し、受講後どうなるかというところまで見通しを持っているということです。参加する側からすると、とても安心感があるし、講座を受けた後にこういう活動が待っているのだなということを示していただくことは、すごく大事なことだと思います。</p> <p>また、講座の内容を見ると、細やかというか、ある部分にスポットを当てた講座が多いので、「これだったら、私もしてみたいな。話を聞いてみたいな」というのがあります。やはり、まずは魅力的な講座。そして、受講後のことをきちんと表すということが、みなさんに一歩を踏み出していただくために大事なのではないかと思います。</p> <p>それと、別の話になりますが、部活動のことでC委員に伺いたいと思います。私の孫が来年度、中学生になりますが、野球をやりたい女の子です。西中学校には女子のソフトボール部があるので、通学するのは東中学校ですが、西中学校で部活ができるようになるというような話を聞きました。それは本当でしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今のお話は、ここでの協議と論点が違いますが、ただ、それが先ほど田中部長がおっしゃっていた拠点校方式のことです。我々の学校は生徒数が多いですが、ほかの市町の地域によっては少子化が進み、もうチームを組めないという</p>

	<p>状況もあります。今、D 委員もおっしゃっていたように、女子ソフトボール部は丸亀市内では西中学校にしかありません。そうすると、ほかの学校でソフトボールをしたいという生徒がいる場合は、西中学校でチームを組みましょうということになり、これが拠点校方式です。これを今年度、市の学校教育課が中心となって進めています。ただ、野球とサッカーについては、チームに女子が入っても中学校体育連盟の大会に出られます。どちらを選択するかは、本人と保護者になります。</p>
委員	<p>丸亀市もこの問題について取り組み、具体的な方式を決めて進められていることを委員のみなさんにお伝えしたくて質問させていただきました。</p>
委員	<p>これまでのお話を聞いて、私個人として思ったことがあります。</p> <p>例えば、学校で今何が困っているかという、若い先生がどんどん増えて、ベテランがどんどん辞めていく中で、筆で文字を書ける人が少なくなっています。私の学校にはたまたま書道の得意な先生がいるので何とかなっていますが、今後、書道講座で学んだ方に、「小学校や中学校の賞状等に名前を書くことにご協力いただけませんか」と投げかけるのもいいかと思いました。受講者にとってはすごく張り合いになると思いますし、我々も大変助かります。</p> <p>静岡市のパンフレットにもありますが、学校の意見を聞きながら、学校が困っていることについて助けていただけたらありがたいです。若い先生が多いので、裁縫等を小学校で教えるのも大変です。また、調理実習では包丁を使うので、安全面での配慮が必要になります。そこで、料理の講座を受けている方々に小学校の授業を助けていただくと、大人の目が増えて、安全に家庭科の授業ができると思います。学校としては、そういうところで、生涯学習の視点を持って協力していただくと助かります。</p> <p>先日、高橋会長が理事長を務める「さぬきっずコムシアター」にご協力いただき、赤ちゃんとふれあう授業を行ったところ、子どもが生き生きと目を輝かせていました。担当の先生も「来年もぜひお願いしたい」と言っていました。</p> <p>また、先ほどの B 委員の話ですが、最初は、敬老会があるから協力してほしいという話から始まりました。しかし、学校に協力してくれということではなく、自主的に動こうとする子どもたちをコミュニティと学校が協力して育てることが大切で、「学校から言われたから行く」というのでは成果があがらないと思います。</p> <p>B 委員にも何度も学校に来ていただいたおかげで、クリスマス会には主体性を持って子どもたちが参加したのだと思います。</p>
委員	<p>校長先生の考え方によって、中学生とコミュニティとが一緒になった活動ができるかできないか決まるのではないのでしょうか。</p>

委員	<p>丸亀市では、小中・地域連携という長年の活動があつて、それにより学校とコミュニティとの連携が進められてきました。ただ、コミュニティによって事情は異なりますので、できるところからやっつけていこうとしています。</p>
委員	<p>私が思ったのは、今の校長が積極的な方だからできて、ほかの校長先生だったらできない可能性もあったのではないかとということです。</p>
委員	<p>私の感じでは、それはないと思います。最初に西中学校にお願いに行った時に、校長から、「コミュニティで子どもたちにそういうことを指導してほしい」と言われて、私も目が覚めました。学校にお願いするのでは地域の運動になりません。中学生自身が自分から、コミュニティセンターに行っておじいちゃん、おばあちゃんの世話をしようかという気持ちにならないと、やっても意味がないと思いました。そのようなことをコミュニティのみんなに話すと、「どうやって子どもたちに宣伝しようか」ということになり、ポスターを描きました。それを貼ってもらうことにしましたが、それだけでは足りない、校内放送もさせてもらうという展開になりました。</p>
委員	<p>B委員の話を最初に断ったのは、連携できるところは連携していきましようという考えからです。</p> <p>P T A連絡協議会もスマホ問題に長年取り組んでくれています。スマホを利用したSNS上のトラブルは増えているので、P T A連絡協議会がスマホに関するいろいろな取り組みを行ってくれるのは、我々学校側にとっては大変ありがたいことです。</p> <p>学校が求めていることと講座の内容がリンクすれば、学んだことをどう生かせるのかという論点につながっていくと思います。</p>
委員	<p>「学習成果を社会で活用する」といったときの「社会」のとらえ方が、委員のみなさんの中でも結構違っています。学校を中心とした社会であったり、職場など企業の中であったりと様々だと思いますが、すべて社会に通じるもので、このテーマで想定する範囲だと思います。また、「学びのあり方」ということは、段階や、その場その場で異なってくるものがあると思いますので、テーマとしては結構広いものを設定しています。</p> <p>資料2の1-①では、社会としてコミュニティを想定していますが、1-③だったら仕事の間を想定しています。それだけ幅のある議論をしていますので、まとめるのも難しいですし、どの事例を参考にすればいいか迷います。とは言え、今、自分たちが抱えている課題、例えば、習字の先生がいないということなどは、現場の方に聞かないと分からない課題だと思います。</p>

	<p>それらに対して市が主体となってアプローチする場合に、市だけでは限界がありますので、協力者が不可欠だろうと思います。その場合、ここがその一つの間だと思えます。ここでは、いろいろ立場の方が一堂に会して、それぞれの事情を抱えながら発言できます。</p> <p>また、社会教育委員一人一人が現場に戻られたときに、一定の間があると思えます。連合会の会長であれば、加入している範囲においてそれぞれの代表がいらっしやると思えますし、私も、例えば大学生とのつながりがあります。そのため、丸亀市から大学生を巻き込んだまちの企画をやりたいなどと言われることがあります。そのような場合には、香川大学の学生ではなく、丸亀市内に住んでいる大学生に呼びかけるのが大切ではないですか、とお伝えすることが結構あります。</p> <p>もちろん協力するのはやぶさかではありませんが、自分の役割がどこまで、ここから先はお任せしないとイケないなどという、協力者とのプロセスや役割分担が多分必要になってくるのだろうと思えます。</p> <p>話が広がる中で、市としてはここまではできるが、ここから先は民間に頼らないとイケないというところを定めるような段階が、この論点の先にあるのかなというふうに、お話を伺いながら思いました。</p> <p>私は高松市民なので、これだけ丸亀市内の話が聞ける場は本当に貴重で、私としてはすごく学びの多い場になっていると思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。みなさんの貴重なご意見をたくさんいただいたかと思えます。これを学びのあり方につなげていくというところで、市の方でも検討していただきたいと思えますが、生涯学習課だけが担うのではなく、やはり庁内の横串を刺した、いろいろなところとの連携がかなり必要になってくるのではないかと感じました。</p>
<p>委員</p>	<p>提案ですが、これまで、社会教育主事の方が行ってきた伝統的な方法は、それが必ずしもいいということではありませんが、一つの定石は、B委員もおっしゃったように、社会調査をし、課題を事務局なりに確認し、そしてそれをもとに講座を開催するとか、施策を立てるとかいう方法が、従来の社会教育行政が粘り強くやってきたことです。その観点から言うと、今日のこの場というのは、まさにそれぞれの委員さん自身が自分の現場をどう見ているかということで、非常に豊かなご意見をいただいて、資料2の次の具体的な構想につなげていく材料になったと思えます。</p> <p>それに加えて、例えばコミュニティそれぞれに運営に携わっている方がいますので、そこにも改めて意見を伺ってはどうかと思えます。あまりかしこまった場になると、今日のような、ある意味自由な話が出てくるかどうか分かりませんが、でも、意見を聞かないよりはいいと思うので、そのような形で各コミ</p>

	<p>ユニティの人たちに話を聞いて、それを事務局として収集するというのを、年が明けてから3月の議会の前までにできる範囲で行ってもいいのではないかと思います。</p>
会長	<p>地域の人材についても、課題と一緒に探したらいいのではないかと思います。地域の中にはいろいろなスキルを持った方がたくさんいらっしゃるの、そのような方を掘り起こすということも大事かと思ひます。</p>
委員	<p>いろいろな話が参考になりました。ただ、個人的な考えを申しますと、この場で意見は出ますが、それぞれ言いつ放しになります。私は委員のみなさんと議論をしたいのですが、そういう機会はまた別にあるのでしょうか。</p>
委員	<p>社会教育委員の会は諮問機関の一つで、時間も限られた中での運営になりますので、委員が自由に議論するのが駄目というわけではありませんが、そういう場ではありません。</p>
会長	<p>形としては、委員が発言するだけになりますが、ここでB委員から課題が出ましたので、その課題をコミュニティ協議会の会などで出し合って、それをまた学びの場につなげるというようなステップを踏むということではないかと思ひます。</p>
課長	<p>今日はいろいろな意見をいただき、ありがとうございます。論点に沿って、今日の意見を取りまとめようと思ひます。</p> <p>論点を幾つか挙げていた中で、意見が出てきた部分もあれば、例えば、学びの提供方法や、仕事に関する事などについて今日はあまり意見がでてこなかったかと思ひますので、そういった点について、また次回の会議で協議していただいたらどうかと思ひます。</p> <p>今日の議論の内容については事務局なりにまとめたものを一度、みなさんに見てもらって、それをまた次の会議で不足するところも含めて、話を広げてもらったらと思ひます。</p>
会長	<p>あともう一つ、コミュニティ協議会でいろいろな講座を開催するものの、参加する人がなかなかいないなどという課題もあったと思ひます。それはコミュニティ協議会だけでなく、いろいろなところで学びの場を作るけれども、参加者が少ないということがあると思ひますので、この点を付け加えさせていただきます。</p> <p><b>【報告】</b></p>

事務局	<p>続きまして報告に移ります。</p> <p>報告1から3まで資料の説明をしていただいた後に質問を受けるようにしたいと思っています。それぞれの資料の説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">《資料6～8に基づき説明》</p>
会長	<p>以上の報告についてご質問等がありますか。</p>
委員	<p>資料7の3ページの真ん中どこかに書かれていることが少し気になりました。「市民の立場は、ボランティアのみなのかは不明。丸亀市のコミュニティセンターの職員との違いが大きくあるように感じた。」と書かれていますが、これは何を言いたかったのですか。</p>
会長	<p>北広島町のまちづくりセンターには有償の市の職員が11人いらっしゃるという話を伺いました。そして、市の職員がいろいろ考えて、地域の方たちを巻き込んでいくという形をとっています。まちづくりセンターに職員がしっかりいるという形態に対して、丸亀市のコミュニティセンターは、所長と事務担当者、後は会長などがいるという形態で、一つの民間団体のように市から委託を受けています。北広島町とは形態が全然違うので、予算などいろいろな点で違いがあるのではないかと感じました。</p>
委員	<p>昔からコミュニティ活動などにかかわっている方には、「無償ボランティアだからやる」という方もいますが、今はそういう時代ではないと思い調べたところ、有償ボランティアというのを考えなければならぬと思いました。</p> <p>市や社会福祉協議会から補助金が出る事業については、かかわった人たちに手当が出ます。しかし、コミュニティ独自で行った事業については、手当を出していません。</p> <p>最も気になったのは、「お出かけ便」といって、地域住民が車を運転して、ほかの住民を送迎する事業があります。車を運転する人は70数人いて、毎週車を走らせていますが、ある時、車の運転から帰ってきた人に、事務の人がジュース1本をあげているのを見て、これはちょっとおかしいなと思いました。</p> <p>また、地域コーディネーターという方がいますが、この事業には別に予算がありますので、コーディネーターとしての業務を行った時間数に応じて日当が支給されます。この二つの事業について何が違うのかと思いました。</p> <p>ある講演会の講師の方が、「今からは有償ボランティアとコミュニティビジネスを考えることが必要」と発言されていましたが、今からのコミュニティ活動の継続のためには、有償ボランティアを取り入れることも必要と感じています。</p> <p>若い人の中には、お金をもらうからやるという人もいます。そのこ</p>

<p>会長</p>	<p>とを強く感じたのは、地域コーディネーターの方が若い人で、手当を初めて渡したらすごく喜んでくれた時です。その人は、「自分が何かをしてお金いただくというのはものすごく嬉しい」と言っていました。</p> <p>コミュニティ活動に人が集まらないと言うばかりでなく、若い人に協力してもらえるように、こちらから寄り添ってこのようなやり方を取り入れていかなければならないな思いました。1,000 円でも 2,000 円でももらうと嬉しいものですから、それがモチベーションになる人もいるわけです。このようなことは市の方でも少し考えてほしいと思います。</p> <p>有償ということで、ある程度責任も伴ってくるかとは思いますが。</p> <p>学び終えた人が次のステップでいろいろな活動をしていくことについて、論点3の②になりますが、活動へのモチベーション維持のためには、活動の対価を考えたり、ポイント制にしたりすることも有効だと思います。また、学び終えた後の次のステップを可視化し、見据えている先を明確にすれば、やる気も出るし、学びやすくなるのではないかと考えています。</p> <p>ほかに事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料は用意していませんが、社会教育委員のみなさんに、12月初めに二十歳の成人式のご案内をお送りしています。日にちは年明け7日の日曜日です。お忙しいとは思いますが、ご臨席いただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>もう1点、お願いがあります。本日、机の上に、10月30日に開催しました社会教育委員の会の会議録を置かせていただきました。会議録の作成が大変遅くなって申し訳ございません。内容を確認していただいたうえで、修正がある場合は1月4日の木曜日までに、生涯学習課までご連絡をお願いします。</p> <p>会議録の公表時には委員のお名前は記載せず、「委員」とのみ記載します。ただ、会長の発言に関しましては「会長」と記載する予定です。よろしくお願ひします。</p>
<p>会長</p>	<p>委員のみなさまから、何かございませんか。</p> <p>ないようですので、以上で本日の議題はすべて終了しました。活発なご発言をありがとうございました。以降は事務局にお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>会長、議事進行をありがとうございました。以上で令和5年度第3回丸亀市社会教育委員の会を終了いたします。次回の開催は2月を予定しておりますので、また日程調整のうえ、ご案内をさせていただきます。本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">- 以上 -</p>



